

FileCapsule Slate 取扱説明書

本書は、Windows 10 / Windows 10 Mobile 向けの FileCapsule Slate について記載しています。

- Windows 8 / 8.1 向けの FileCapsule Slate とは画面および操作が異なります。
- 本書に記載されている画面のイメージは、PC で実行した場合のもので、携帯電話やその他のデバイスで実行した場合の画面とは異なる場合があります。
- 本書に記載されている社名および商品名は、本文中に明記していませんが、一般に各メーカーの商標または登録商標です。

1. アプリを入手する

FileCapsule Slate は、PC もしくは携帯電話からストアにアクセスしてダウンロードしてください。



2. パスワードで暗号化する

STEP1. 暗号化するファイルを選択する

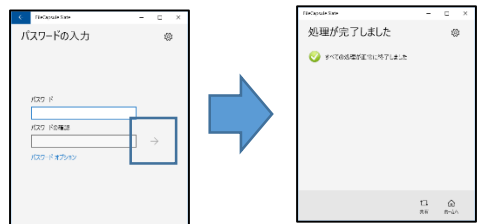


アプリを起動し、[パスワードを用いて暗号化] を選択します。

[ファイルの選択] ボタンをクリックまたはタップして、暗号化したいファイルを選択します。

暗号化したいファイルを選択後、[次へ] をクリックまたはタップします。

STEP2. パスワードを入力する



任意のパスワードを入力し、[→] をクリックまたはタップします。

暗号化処理が終わると完了画面が表示されます。

3. パスワードで暗号化されたファイルを元に戻す

STEP1. 元に戻すファイルを選択する

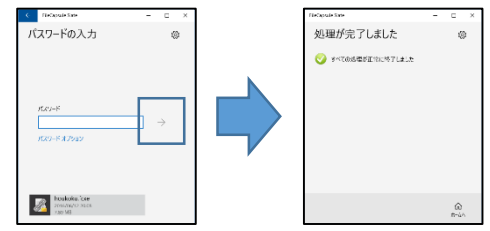


アプリを起動し、[ファイルの復号] を選択します。

[ファイルの選択] ボタンをクリックまたはタップして、元に戻すファイルを選択します。

元に戻すファイルを選択後、[次へ] をクリックまたはタップします。

STEP2. パスワードを入力する



暗号化した時と同じパスワードを入力し、[→] をクリックまたはタップします。

処理が終わると完了画面が表示されます。

4. 公開鍵で暗号化する

- FileCapsule Slate は、暗号化されたファイルを他の人と安全にやり取りするために公開鍵方式の暗号化機能を搭載しています。
- 公開鍵で暗号化を行う場合は、暗号化を行う前に、暗号化ファイルを受け取る予定の人から公開鍵ファイルをあらかじめ入手しておいてください。
- 公開鍵ファイルの作成方法は、本ドキュメントの「6. 公開鍵と秘密鍵を作成する」をご参照ください。

STEP1. 暗号化するファイルを選択する



アプリを起動し、
[公開鍵を用いて暗号化] を
選択します。

[ファイルの選択] ボタンを
クリックまたはタップして、
暗号化したいファイルを選択
します。

暗号化したいファイルを選択後、
[次へ] をクリックまたはタップ
します。

STEP2. 公開鍵を選択する



[公開鍵の選択] ボタンで
公開鍵を選択し、
[暗号化の開始] をクリック
またはタップします。

暗号化処理が終わると
完了画面が表示されます。

5. 公開鍵で暗号化されたファイルを元に戻す

- 公開鍵で暗号化されたファイルは、秘密鍵で元に戻すことができます。

STEP1. 元に戻すファイルを選択する



アプリを起動し、
[ファイルの復号] を選択
します。

[ファイルの選択] ボタンを
クリックまたはタップして、
元に戻すファイルを選択
します。

元に戻すファイルを選択後、
[次へ] をクリックまたはタップ
します。

STEP2. 秘密鍵を選択する



暗号化に用いた公開鍵と
一緒に作成された秘密鍵を
選択し、[>] をクリックまたは
タップします。

処理が終わると
完了画面が表示されます。

※秘密鍵が暗号化されている場合

処理の開始前に、秘密鍵の
パスワードの入力が求められます。

6. 公開鍵と秘密鍵を作成する

- 本手順で作成される公開鍵を用いて暗号化されたファイルは、一緒に作成される秘密鍵でのみ元に戻すことができる仕組みになっています。
- 秘密鍵は他の人に使用されないよう、安全に保管してください。



アプリを起動し、
鉛筆マークのボタンをクリック
またはタップします。

開いた画面で [作成] ボタンを
クリックまたはタップします。

※秘密鍵を暗号化する場合



[秘密鍵を暗号化して保存する]
を選択し、パスワードを入力
します。

パスワードを入力後、
[作成] ボタンをクリックまたは
タップします。

7. 動作設定を行う



アプリを起動し、画面右上の歯車マークのボタンをクリックまたはタップします。

設定画面では、画面上部のタブで画面を切り替えることができます。

7.1 暗号化の設定



【元のデータの作成日時などを保持する】

- ファイルやフォルダーの作成日時、更新日時、アクセス日時を暗号化ファイルに記録し、元に戻したときにそれらの時刻が復元されるようにします。

【暗号化されたファイルの保存先】

- 暗号化されたファイルを特定のフォルダーに保存したい場合に指定します。

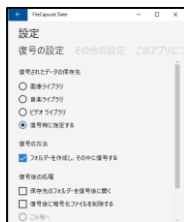
【暗号化ファイルの名前に元の拡張子を含める】

- 暗号化後のファイル名が同一になってしまうような場合に利用します。

【暗号化後に元のデータを削除する】

- 暗号化が終わったファイルを自動的に削除するかどうかを指定します。
 - ごみ箱へ
暗号化が終わったファイルをごみ箱に移動します。
 - 削除
暗号化が終わったファイルをごみ箱に移動せず削除します。
 - 上書き後に削除
暗号化が終わったファイルを無意味なデータで上書きし、削除します。
ファイルの復元ソフト等による復元を防ぐのに一定の効果があります。

7.2 復号の設定



【復号されたデータの保存先】

- 元に戻したファイルを特定のフォルダーに保存したい場合に指定します。

【復号の方法】

- 保存先のフォルダーの中に新しくフォルダーを作成し、その中に元に戻したファイルをまとめて保存するかどうかを指定します。

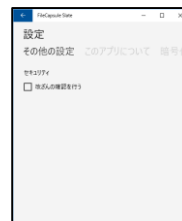
【保存先のフォルダーを復号後に開く】

- 処理の完了後に、元に戻したファイルの保存先フォルダーを自動的に開くかどうかを指定します。

【復号後に暗号化ファイルを削除する】

- 元に戻し終わった暗号化ファイルを自動的に削除するかどうかを指定します。
 - ごみ箱へ
暗号化ファイルをごみ箱に移動します。
 - 削除
暗号化ファイルをごみ箱に移動せず削除します。
 - 上書き後に削除
暗号化ファイルを無意味なデータで上書きし、削除します。
ファイルの復元ソフト等による復元を防ぐのに一定の効果があります。

7.3 その他の設定

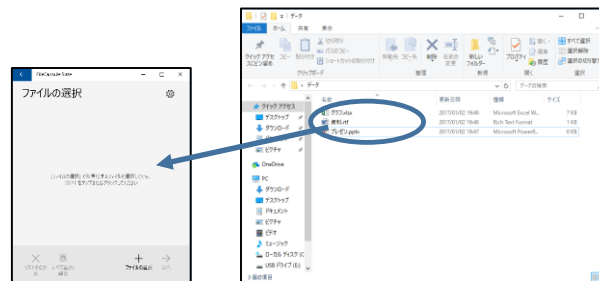


【改ざんの確認を行う】

- 暗号化ファイルを元に戻した後、正しく元に戻すことができたかどうかを検証するかどうかを指定します。

8. 便利な使い方

8.1 処理するデータの選択



暗号化、または復号するファイルは、エクスプローラー上からアプリへドラッグ&ドロップすることで追加することができます。

※ドラッグ&ドロップで追加されたデータは、暗号化後または復号後に自動的に削除することができません。
※公開鍵の選択画面、および秘密鍵の選択画面でも、同様にドラッグ&ドロップで鍵を追加できます。

8.2 ファイルをパスワードにする



パスワードを入力する画面で、[パスワード オプション] の [ファイルをパスワードにする] を選択すると、パスワードを入力する代わりに、任意のファイルをパスワードとして利用することができます。

※ファイルをパスワードにする機能は、ファイルの内容をパスワードとして利用しています。
 ※ファイルの内容が上書きなどで変更された場合は、同じファイルであっても異なるパスワードが生成されます。
 パスワードとして利用したファイルの取り扱いには十分ご注意ください。

9. 仕様

9.1 暗号化と復号

処理可能なデータの最大パス長	259 字
パスワードの最大長	64 字
一度の暗号化で指定できる公開鍵の最大数	65534 個
一度の暗号化で暗号化可能な最大データ数	2048 個
1ファイルあたりの処理可能最大サイズ	18446744073709551615 バイト

9.2 暗号化ファイルの互換性

Windows デスクトップ版	FileCapsule Deluxe Portable Ver.2.00 以降
Windows ストア版 (Windows 8 / 8.1 版)	Ver.1.00 以降
iOS 版	Ver.1.00 以降
Android 版	Ver.1.00 以降

10. サポート

サポートはメールでのみ行っています。下記のアドレスまでご連絡ください。

resume_next@infoseek.jp